

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第125回 「家族こそが世界である ～アルフレッド・アドラー～」

こころの相談員 前田 里美

動物は妊娠（お腹の中に居る）期間が長い代りに、生まれて何時間か経つと自分で歩くことができます。しかし人間は未成熟なまま生まれるので、歩けるようになるまで約一年、自立した生活が送れるようになるまでには十数年以上生まれてからも親の保護が必要な生き物です。

ゆえに、弱い存在である子どもは親から見放される事が一番の恐怖であり、生きる為に親に愛され認めてもらおうと努力するわけです。つまり、子どもにとって家族が全ての世界なのです。

しかし、その努力の仕方は子どもによって違います。褒めてもらいたくて親の言う事をしっかり守るいい子でいようとする子もいれば、親の気を引こうと自分の弱い所をアピールし、実際に病弱になる子もいます。また、反抗したり問題行動を起こす事で親の関心を自分に向けさせようと必死になる子もいるでしょう。どの子も方法は違えど、目的は同じなのです。

この努力の仕方が後のその子の行動や性格のパターンを作っていく基礎になっていくと言われていきます。例えば、子どもが問題行動を起こし親は何とかしようと思えば懸命に行動するとします。子どもにとって「自分のとった行動が親の関心を引いて動かした」という成功体験を学習したことになり、その後も繰り返すこととなります。その繰り返しが身について、家族以外の人との人間関係にも応用されるということなのです。

人間が成長する上で努力は必要な事ですが、人間関係で自分を取り繕ったりするのではなく、素直にそのままの自分でいられるような関係、そんな基礎を築ける家族でいられたらいいですね。

※前田相談員は、朝日小学校・中学校で相談活動を行っています。

4月活動報告

4月より作業療法士による療育
および相談を始めました！

主に身体の発達に関する療育で、
週1回あさひ園で行っています。

詳細は子育て健康課（377-5652）
山岸までお問い合わせください。

